横須賀日日新聞
YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN
市民記者がつくる
横須賀日日新聞©
発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 yokosuka@kanagawa-np.co.jp 第40号
神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1ヵ月3,189円
平成27(2015)年7月5日発行

INDEX

2 堂々と風見鶏
3 野鳥やオブジェの写真
4 ウルトラマン 人気の秘密は

横須賀日日新聞　第40号
2015年7月5日

あなたが地域の主人公　3

テーマ：若者のボランティア
（参加へ背中の一押しを）

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 3

若者のボランティア

参加へ背中に一押しを

市民活動団体は、「若者がなかなか活動に参加してくれない」としばしば嘆く。今の若者に社会参加の気持ちがないからだろうか。

彼らは生まれた時から不況下で育ち、昔のような右肩上がりの幻想は持っていない。学校を卒業して社会人になり、仕事中心に懸命に働く、そんなライフスタイルは初めから頭にないのだ。彼らは在学中も、卒業後も本業以外の居場所を見つけ、そこにも生きる意味を見いだそうとする。その意味では昔の若者より、仕事以外の社会参加をしてみたいという意識は高いのだと思う。

サポートセンターでは毎年、多くの学生ボランティアを市のイベント等にコーディネートしている。登録学生は500を超える。だがその中で実際にボランティアを行う学生は年100人を超えるくらい。卒業まで全く参加しない学生も多い。

学生時代に横須賀の児童養護施設でボランティアをした廣江水月さんは「ボランティアをやりたい人はたくさんいても、行動に移せない仲間が多かった。サポートセンターでボランティアを紹介してもらい人生が変わった」と語る。背中の一押しが必要なようだ。

学生の社会参加、地域参加を推奨する県立保健福祉大学の金龍哲・学部長に、なぜ学生にボランティアをさせたいのかお聞きした。

「東日本大震災やカンボジアのボランティアに学生と参加しました。現地での経験を経た学生の変化にいつも驚かされます。帰りのバスで次の訪問を計画する、ちょっとした関連ニュースに耳を傾ける、人ごとではなく自分事としての『共感』がそこに生まれるのです。福祉系の学生なので、知識としてボランティアや社会参加の必要性は理解していますが、実際の経験が伴うことで福祉の実践者が生まれてくるのです」と語った。

道路施設の落書きを消し、街の美化に汗を流す高校生や大学生のボランティアグループ

私はYMCAという社会教育団体に30年身を置いている。若い頃は学生ボランティアと一緒に子どもたちの野外活動を企画し、共に汗を流した。彼らの中には卒業してもなんらかの形でボランティア活動を続けるOBが多い。若い頃に社会参加することが若者の成長に、そして健全な社会のありかたに絶対必要だと信じている。

若者がなかなか参加しないと嘆くのではなく、地域が若者を受け入れる土壌づくり、若者の自由な発想が生かせるような受け皿づくりが必要と思う。若者が主役となる地域社会を目指したい。

（横須賀市立市民活動サポートセンター館長・髙橋　亮）